

■ 第18回 多摩川流域セミナー

“多摩川の環境をつないで語ろう！” ～源流から、河口から～

主催：多摩川流域懇談会

みんなに伝えたい多摩川の魅力はありませんか？

あなただけが知っている多摩川の姿を皆さんに教えてください。

そして今後の川づくりについても考えて見ませんか？



● 日時

・・・ 2005年8月20日 土曜日 午後13時30分～16時30分

● 内容

・・・ 13:30 開会挨拶

長島 保（多摩川流域ネットワーク代表）

・・・ 13:35 話題提供

・「河口からの環境レポート」安元 順（かわさき・海の市民会議）

・「おいしい鮎が食べたい！」遠藤 保男（多摩川を飲める水にする会）

・「多摩川の川づくり計画のフォローアップ・環境」齋田 紀行（京浜河川事務所）

・・・ 14:35 休憩

・・・ 14:50 ワークショップについての説明

・・・ 15:00 ワークショップ

・・・ 16:00 全体ディスカッション「情報の共有・交流・再発見！」

コーディネーター

倉持 武彦（多摩川流域ネットワーク） 山田 政雄（京浜河川事務所）

2005(平成17)年2月19日(土)、多摩川流域懇談会の主催により第18回多摩川流域セミナーを川崎市の中小企業婦人会館で開催しました。

今回のテーマも前回に引き続き「多摩川水系河川整備計画フォローアップ」です。

2005(平成17)年8月20日(土)、多摩川流域懇談会の主催により、川崎市多摩区にある二ヶ領せせらぎ館で第18回多摩川流域セミナーを開催しました。

当日は、横浜地区の最高気温が32.5度を記録するなど、残暑の厳しい1日となりましたが、当初予定していた50名を大きく上回る80名に近い参加者で、会場は立ち見が出るほどの盛況ぶりでした。



今回の流域セミナーでは、多摩川的环境をテーマに市民の方々や行政からの話題提供とワークショップなどを通じて「情報の共有・交流・再発見」を目指しました。

また、当日は、せせらぎ館周辺の多摩川河川敷で「水・ディスカバー多摩川」をテーマとした「かわさき環境デー」が行われており、せせらぎ館とその周辺にはたくさんの多摩川大好き人間が集まりました。



多摩川流域ネットワーク(略称TBネット)代表の長島保さんによる開会挨拶に引き続き、TBネットの安元順さんから「河口からの環境レポート」と題して、多摩川河口部の干潟などの現状に関する話題提供が行われました。

また、同じくTBネットの遠藤保男さんからは「おいしい鮎が食べたい！」と題して、多摩川の水質に関する話題提供を行いました。多摩川の水質については、10月1日に開催する次回第19回多摩川流域セミナーでメインテーマとして取り扱います。



一方、行政からの話題提供として京浜河川事務所河川環境課長の齋田紀行から「多摩川の川づくり計画のフォローアップ・環境」と題して、これまで行ってきたよりよい多摩川的环境づくりの取り組みや今後の方針について報告を行いました。

平成15年度から行っている「多摩川水系河川整備計画フォローアップ」ですが、今年度は今回の流域セミナーも含め、個別のテーマごとに流域セミナーの場で皆さんのご意見を伺いながら、作成して参りたいと考えております。



話題提供に続き、4つのグループに分かれてワークショップ(マップ作り)を行いました。

最初に参加者の皆さんが感じている多摩川の良いところ・悪いところ・その他の多摩川に対する思いを、それぞれ青色・ピンク色・黄色の付箋紙に一言で書き出してもらいました。



その後、山梨県の多摩川源流笠取山から東京湾の河口までが描かれたマップ(多摩川流域図)に、先ほど書き出した付箋紙を、一枚一枚貼り付けていきました。

こうして作成した「多摩川の環境マップ」をあらためて参加者全員で眺めながら、今後のよりよい環境づくりについて考えました。



最後は、参加者全員がひとつの場所に集まり、各グループで作成したマップについてどのような意見が出されたのか、またグループとしてどのような考えに至ったのかなどの発表を行い、参加者全員で情報の共有を行うとともに、ディスカッションを行いました。

作成されたマップは、それぞれのグループごとに個性に溢れていましたが、概ね上流域ではプラスのイメージが多いのに対して、下流に行くに従ってマイナスのイメージが増えていく傾向にありました。



今回のワークショップでは、もちろん多摩川の悪い面も出されましたが、結果的には皆さんの多摩川に対する愛情が良く現れていたと思います。

このように内容盛りだくさんとなった今回の多摩川流域セミナーですが、閉会挨拶で京浜河川事務所長の森吉尚が申し上げたように、今後もこの様な機会を通じて継続的に皆さんのご意見を伺って参りたいと考えておりますので、次回以降のセミナーにもより多くの皆さんが参加していただくことを期待しています。

